

抄 録

Beiträge zur Klinik der Tuberculose Bd. 79, H. 2, 1932.

喉頭結核症ノ「レントゲン」寫眞像

A. Thost: Die Kehlkopftuberculose am Leben-
den im Röntgenbild.

著者ハ、既ニ 10 年來喉頭ノ X 線寫眞ニ關シテ研究シ
1913 Atlas über den normalen u. kranken Kehlkopf
des Lebenden im Röntgenbild ナル著書ガアル。

從ツテ本論文ニ於テモ、正常ノ喉頭 X 線寫眞像或ハ
殊ニ Morgagni 氏竇、喉頭軟骨化骨化像等ニ就テノ
説明ガ、コノ前著書カラ引用セラレ、病理解剖學的
方面ニ就テハ殆ド Manasse ノ説ヲ用キテキル。今回
ノ論文ニハ 1926—1929 — Langenhorn — 於ケル
Lungenstation テ 173 例(男 132, 女 41)ニ就テ喉頭結
核症ノ X 線寫眞像ヲ研究シテ報告シテキル。多數ノ
喉頭 X 線寫眞像ト喉頭鏡所見像ト對照スル圖ヲ掲載
シ、説明ヲ加ヘテ、結核性病變ニヨツテ起ル種々ノ
之ニ相當スル X 線寫眞像ニ就テ論述シ、殊ニ, Mor-
gagni 氏竇ノ像ハ喉頭結核症診斷ニ甚タ重要ナル
コトヲ主張シテキル。

喉頭結核症ニ於テハ、微毒ニ於ケルト同様喉頭軟骨
ニ特異ナ石灰沈著ヲシ、之レモ診斷ニ興味アル問
題ナルトシ、結核ト微毒トガ同時ニ證明セラル、
症例ヲ記載シテ、是等 X 線寫眞像ニ就テ論述シテキ
ル。(關根抄)

自然氣胸ノ良型ニ就テ

H. Dorendorf: Über die meist gutartige Form
des Spontan-Pneumothorax.

自然氣胸ガ一見健康ナ青年ニ突然偶發シ、良好ナ經
過ヲトリ、且ツ屢々再發ヲミルコトガアル事ハ珍ラ
シクナイ。著者ハ Berlin Bethanien Krankenhaus
内科教室テ 6 例ノ自然氣胸ヲ經驗シ、5 例ハ 20 歳、
1 例ハ 34 歳テ何レモ年齢ノ若イ、然モ仕事又ハ運動
シツ、アル間ニ起ツテキル。本論文ニハ、不幸ノ轉
機ヲトツタ 2 例ノ自然氣胸ノ解剖所見ヲ記載シ、從
來ノ文獻ヲ引用シテ自然氣胸ノ成因ヤ此ノ良好ナル
經過ヲトルモノ、多イコトニ關スル考察ヲ下シテキ
ル。不幸ナ轉機ヲ攝ツタ例ハ、1 例ハ肋膜腔ノ出血

ニヨリ、1 例ハ他側ノ肺及ビ心臟障ヲ證明シタ。
自然氣胸ノ成因ハ肺臟ノ結核性病竈ノ石灰化又ハ瘰
癧性萎縮ニヨル泡狀ノ肺氣腫ガ破レルコトニヨツテ
起ルコトガ最モ多ク、X 線寫眞ニヨツテ、石灰竈ガ
見ラレ、是等ガ肺結核初期變化群ナルコトヲ知ル。
自然氣胸ガ良好ナ經過ヲトルノハ、肺結核症ハ殆ド
全ク治癒シテキルモノニ起ルカラデアルト終リニ結
ンデキル。(關根抄)

恢復期患者血清ヲ以テスル肺結核治療ニ就テ

Cesare Zach: Zur Behandlung der Lungentu-
berculose mit Rekonvaleszentenserum.

J. Leitner(Beiträge Klin. Tbk B. 73, H2; B 76 H 2-
3)及ビ Triolo(1929)ハ既ニ肺結核症恢復期ニアル患
者ノ血清又ハ血液ヲ以テ肺結核症ノ治療ヲ試ミテ、
兩著者共良結果ヲ得タコトヲ發表シタ、一般ニ慢性
ノ經過ヲトル傳染性疾患殊ニ肺結核症ニ於テハ Anti-
gen ト Antikörper ト量ニ平衡狀態ハ色々ナ關係
ヲ指示シテキル。何等カノ原因ニヨツテ、平衡狀態
ガ破ラレテ治癒機轉ガ起リ、Antikörper ガ Antigen
ヲ遙ニ凌駕スレバ不長ナ結果ヲ惹起スルトイフ考ヘ
ノモトニ行ナハレタ。恢復期ニアル患者ノ血液ヲ得
ルコトガ困難ナ點カラ Leitner ハ人型菌ヲ以テシタ
トキノ牛ノ血液又ハ血清ヲ用ヒタ。

著者ハ 13 例ニ就テ行ツタ。治療ヲ行ツタ患者ハ何レ
モ殆ド重症ナ活動性肺結核症ナル。注射法ハ筋肉
内深部ニ、最初 1 ccm カラ 5 ccm マテ 5 日ノ間隔ヲ
置イテ、20 日カラ 3 ヶ月間ヲ一治療週期トスル。著
者ノ行ツタコノ治療成績ハ何等特別ナ成績ヲ認メル
コトガ出來ナカツタ。要スルニ、コノ方法ハ一般ノ
刺戟療法ニ異ルトコロガナイト著者ハ結ンデキル。

(關根抄)

結核性咯血ヲ特ニ顯慮シテ検査セル血液ノ
凝固性ニ及ボス副甲状腺「ホルモン」ノ影響
ニ就テ

G. F. Bume und T. C. Liu; Zur Wirkung des
Parathyreoidea-Hormones auf die Blutgerinn-

ung, unter besonderer Berücksichtigung der tuberculösen Hämoptoe.

Parathyreoidea-Hormon トハ Lilly 會社製ノ Parathormons トシテ發賣サレテキル製劑デアツテ、Parathyreoidea ト石灰ノ新陳代謝トノ關係カラ、コノ Harmon ガ血液凝固ニ及ボス作用が存在セシバナラストイフ考ヘカラ起ツタモノデアル。本論文ハ實驗ト臨牀トノ二部カラ成リ、前者ニハ 13 頭ノ家兎ヲ用ヒ血液凝固時間ヲ測定シ、凝固時間ノ短縮ガ證明セラレ、後者ノ部分テハ、結核性咯血 10 例ニ用ヒ、9 例ハ咯血ガ止リ、1 例ハ止マラナカツタ、コノ 1 例ハ他ノ止血劑ヲ用ヒテモ效果ガ無カツタ、然シ Ostelin (Vitamin-D) ヲ経口ノニ用ヒテ止シタ。9 例中 2 例ハ他ノ止血藥ヲ用ヒテモ效果ガ無ツタノガ Parathyreoidea-Harmon ヲ用ヒテ始メテ止血シタ。最モ作用ノ著明ニ現ハレルノハ、1 日ニ 2-3 回使用シタ場合デアルガ、コノ止血作用ノ説明ニ就テハ更ニ研究ノ必要ガアル。(關根抄)

結核性腦膜炎ニ關スル研究、第一回報告、 結核性腦膜炎ニ對スル素質

D. Orosz; Studien über die Meningitis tuberculosa. I. Mitteilung. Die Disposition für tuberculöse Meningitis.

本報告ハ統計的觀察デアツテ、著者ハ、1930 迄約 18 年間 Wien 大學小兒科教室ニ於テ、丁度 500 例ノ結核性腦膜炎ヲ經驗シタ。其ノ統計的報告ヲ基礎トシテ、從來ノ多數ノ文獻ヲ集メテ比較對照シタ詳細ナル論文デアル。

即チ著者ノ材料ニヨレバ、Wien 大學小兒科教室ノ取扱ツタ患者總數ニ對スル結核性腦膜炎ノ百分率ハ 1914—1918 世界大戰ニ於テ最高頂ヲ呈シ、最近ハ著シク減下シテイル、特ニ注目スベキハ、幼兒ノ罹病數(總疾患)ハ變ラナキノニモ拘ラズ、補乳兒ノ結核性腦膜炎ハ近年著シク減少シタコトデアツテ如何ニ社會衛生方面ニ注目スベキカラ如實ニ示シテキル。結核性腦膜炎ノ罹病年齡ハ、著者ノ例ト從來ノ文獻ト合セテ、約 2000 例以上ニ就イテミルニ、1/5 ハ 2 歳以下テ 4/5 ハ 6 歳以下デアル。性別ニ於テハ何等關係ガ無イ。季節的ニ、著者ノ例ト文獻例ト合セテ約 8000 例ニ就イテ觀ルニ、最モ多イノハ、3, 4, 5 ノ 3 ヶ月デアル。

體質的素因ニ關シテハ特記スベキモノヲ得ラレナカ

ツタ。

家族的素因ニ關シテ、二三ノ文獻ハ一致シタ報告ヲ記載シテキルモノモアルガ、實地上ノ價值ハ疑ハシイ。(關根抄)

結核性腦膜炎ニ關スル研究、第二回報告、 原發性結核症ト結核性腦膜炎、眞性亞原發性及ビ早期續發性腦膜炎

D. Orosz: Studien über die Meningitis tuberculosa. II. Mitteilung. Primärtuberculose und Meningitis tuberculosa. Echtesubprimäre und frühsekundäre Meningitiden.

第一章ニ於ケル、結核ノ初感染ト結核性腦膜炎ニ就テハ、小兒ニ於テハ、結核性腦膜炎ハ初感染ニヨツテ發シ、著者經驗例 124 例ヲ統計的ニ精細ニ觀ルニ大體ニ於テ、結核性腦膜炎ハ生後 3 ヶ月以後ノモノカラミラレ、18 ヶ月位マテ増加シテ、生後 2 ヶ月ノモノニハ遭遇セナイ、從ツテ、結核性腦膜炎ノ潜伏期ハ、恐ラク 2 ヶ月以内デアラシイ。

次ニ、結核性腦膜炎ト allergie ノ發現、次ノ章テハ結節性紅斑ト結核性腦膜炎トノ關係ヲ論述シテキル。即チ主トシテ、經過時間的關係ヲ著者が各例毎ニ觀察シ得タ 44 例ニツイテ、allergie ノ發現ト結節性紅斑トノ一致スル事、結節性紅斑ト腦膜炎トノ關係、結核性腦膜炎ノ發病ト經過等ヲ精細ニ論述シテ、結核性腦膜炎ノ潜伏期ニ推論ヲ下シテキル。氏ハ allergie ノ發現即チ紅斑或ハ新ラシキ血脈「フリクテン」ノ發生ト結核性腦膜炎發現ノ間隔ハ平均約 5—6 週デアツテ、結核性腦膜炎ノ經過ハ平均 3 週間デアル。(關根抄)

結核症ニ於ケル扁桃腺ノ關與

Johannes Otto: Die Beteiligung der Tonsillen bei der Tuberculose.

結核症ニ於テ、扁桃腺ハ血行性ニ又ハ吸收性 Resorptiv ニ侵サレルカ、而シテ組織學的ニ其ノ所見カラ區別シ得ルカトイフ問題ニ就テノ論文デアル。

總檢査例ハ 45 例テ、内 41 例ハ 5 ヶ月乃至 12 年ノ小兒ノ肺結核症テ、4 例ハ成人デアル。

咽頭扁桃腺ヲ殊ニ精細ニ觀察シ、且ツ血行性感染ヲ知ルタメ頭蓋底骨ヲモ同時ニ檢査シテキル。

45 例中 74% ノ結核性扁桃腺ヲ證明シ得タ。

著者ハ 7 例ヲ特ニ詳細ニ互ツテ臨牀的並ニ解剖的所見ヲ記載シ、4 例ハ全身性血行性粟粒結核症兼結核性腦膜炎ノ血行性播種ニヨル扁桃腺像ヲ記シ、3 例

ハ粘膜表面ヨリ 吸收性ニ起ツタ 扁桃腺結核ノ所見ヲ 記載シテキル。即チ前者ノ場合ニ於テハ 結核結節ハ 主トシテ 深部ノ 淋巴組織ニミラレ、殊ニ、淋巴濾胞 周圍ノ 毛細血管ニ證明セラレ、後者ノ場合ニ於テハ、 表在性テ、扁桃腺上皮下殊ニ 腺窩部上皮下ニ 結核性 肉芽組織ガ 聚合性ニ存在スル。然シ、コノ 兩者ノ 場合ノ 區別ハ 甚ダ困難デアリ、明瞭ニ 區別スルコトハ 早期テナケレテ出來ナイ。

コノ 扁桃腺結核症ノ 研究ハ 病原論ニ就テ 重大問題テ アリ 扁桃腺ノ ミナラズ、他ノ 上氣道及ビ 消化器系統 ノ 淋巴濾胞組織竝ニ 臟器ニ於テモ 傳染性疾患ニ對シ 根本問題デアル。

(關根抄)

骨系統ノ結核症ニ關スル病理解剖學的研究

Edmund Randerath: Pathologisch-anatomische Untersuchungen über die Tuberculose des Kno-

chen-Systems.

本研究ハ骨結核ニ關スル 精細且ツ膨大ナ 論文デアツ テ約 150 頁ニ餘ル、Düsseldorf 大學病理學教室 Huebschmann 教授ノ指導ニヨル。

二部分ニ分タレ、第一部ハ、結核病理ノ 總論ヲ記述 シ第二部ニ於テ著者ノ研究報告ヲ記述シテキル。

1928—1930 年、50 例ニ就テ檢索シ、三種類ニ分ツ。即チ第一群ハ 18 例テ、全身性粟粒結核症テ、第二群 ハ成人ノ慢性肺結核症 22 例、第三群ハ 20 例テ慢性ノ 骨結核症ヲ有スルモノデアル。

本編(B. 97. H 2.)テハ、全身性粟粒結核症ニ於ケル骨髓ノ 結核性變化ト慢性肺結核症ニ於ケル骨髓ノ病變ニ關シテノミ分載セラレ、骨組織ニ局限セル慢性結核症ニ關スル論文及ビ結論ハ掲載サレテキナイ。續編參照ノコト。

(關根抄)

Zeitschrift für Tuberkulose Bd. 60, H. 4, 1931.

レ線透視ニ依リ所謂健康者ノ並列的検査ノ

經驗

Margret Neumann: Weitere Erfahrungen mit Reihenuntersuchungen angebltch Gesunder mit Röntgenstrahlen.

所謂健康ト稱スル者 3757 名ニ就キレ線透視ニ依リ検査セルニ内、看視ヲ要スル者 3.5%ニシテ尙其ノ内ノ 1.7%ハ治療ヲ要ス可キ症狀ヲ呈シタ。是等ノ數字ハ先ニ行ハレタル數次ノ並列的検査(Reihenuntersuchung)ニ於ケル結果ヨリモ過大ナルカ即チ其ノ理由ハ、ヨリ精密ナ透視技術ト數度ノ撮影ニヨル。是等危険ニ曝サレタル住民中加療ヲ要スル結核患者ハ大體次ノ割合ニテ豫知セラル。即チ、0—5 歳 0%、6—15 歳 0.4%、16—30 歳 2.1%、30 歳以上ハ 3.7%。

直接傳染ノ危険ニ曝サレタル者、經濟的ニ不遇ノ者(無料宿泊所ノ浮浪人等)及ビ精神病患者中ニハ自覺セザル結核患者ガ相當多イ。開放性結核ハ全例中 48%ニシテ年齢ハ 15—30 歳ノ者ニ見ル。

患者ニシテ實際自覺シオラザルモノ、結核ノ數ハ公表サレタル數ヨリ大ナル。尙往時更ニ深ク検査ガ行ハレ得タナラバ肺結核患者ハ更ニ多く見出サレタデアラウ。此ノ誤ヲ少クスルタメニハ Reihenuntersuchungヲ益々盛ニナラシムルコト殊ニ素質アル者ヲ今迄傳染源消失ニ對シテ留意セン以上更ニ關心ヲ

以テ看視スル事ガ必要ナル。

(相澤抄)

所謂健康者ニシテレ線検査ニヨリ診斷セラ

レタル肺結核患者ノ經過及豫後

H. Braeuning: Verlauf und Prognose derjenigen Lungentuberkulosen, welche wir auffinden, wenn wir Menschen, die sich für gesund halten, mit Röntgenstrahlen untersuchen gleichzeitig ein Beitrag zur Klinik der Tuberkulosis incipientis und inapperepta.

並列的健康診査ニ於テ、レントゲン透視ニ依リ本人達ノ氣付カザルニ既ニ發病初期ニアルモノ或ハ、慢性ノ經過ヲトレルモノ自然治癒ヲ來シヨルモノ等ヲ多數ニ發見スル事ヲ述べ、殊ニ健康者ト稱スルモノ程並列的検査ノ價值ノ必要性ヲ力説セリ。而シテ此ノ事業ヲ充分ニ遂行スルニハ少クとも、一萬ノ人口ニ對シテ二千位ノ割テレントゲン検査ヲ施行ス可キデアル。而シテ、開業醫モ唯單ニ聽診ノミナラズレントゲン検査モ是等ト同様ニ併用ス可キデアル。最モ主要ナルコトハ適當ナル時機ニ結核ヲ發見スルコトニシテ之レガタメニハ唯單ニ醫者ガ診察ノ際ニ結核ノ疑ヒダケニ止メズニ進ンテ徹定的ニ肺ノレントゲン検査ヲ施行ス可キデアル。

而シテ氏ハ男性 42、女性 85、合計 127 例ノ結核患者ニ就キ、1 年以上永キハ 13 年間ニ亙リ(平均 3 年間)ソノ經過ヲ觀察シテ次ノ結果ヲ表示セリ。

Alter bei Entdeckung der Erkrankung	Summe	Geheilt	Gebessert	Gleich geblieben	verschlechtert	Gestorben
0—10 Jahre	70	49=70%	10=14%	2=3%	2=3%	7=10%
11 u. mehr Jahre	126	12=9.5%	33=26%	34=27%	41=32%	6=4.8%

尙ホ是等ノ個々ノ経過ニ就キテモ詳細ニ互リ表示セリ。而シテ是等ノ數字ハ幼年期ニ於ケルモノ程、経過及ビ豫後ノ良好ナル事ヲ示シテキル。(相澤抄)

結核ニ對スル Methylantigen ノ療法

A. Boquet und L. Nègre: Die Behandlung der Tuberkulose mit Methylantigen

Boquet 及ビ Nègre 兩氏ハ Methylantigen ノ製法、使用法、及ビソノ補體結合反應ニ於ケル應用ニ就キ記述セリ、Methylantigen 人類結核ヘノ療法ノ始ハ 1923 年以來ニシテ研究動物ニヨル結核實驗ノ良好ナル結果ニ刺戟サレタルモノナリ。

Methylantigen ハ極ク少量ヅ、長期間ニ互リ増量的ニ皮下ニ注射スレバ 決シテ危險ナル病竈ヤ 全身反應等ヲ起スモノデハナイ。而シテ 多量ニ用ヒルヨリモ少量ヅ、漸進的ニ用ヒル方效力多シ。長期間療法ヲ繼續スレバ 外科的結核、殊ニ腺、骨ノ結核ニ於テ其ノ變化ガアマリ古クナケレバ 尙效力多シ、肺、及ビ腎結核ノ 破ル型ニ對シテモ、其キ影響ヲ及ボス、肺患者ハ一般ニ 外科的結核患者ヨリモ敏感ナル様ニ思ハレルカラカ、ル例ノ 治療ニ際シテハ 特ニ 慎重ニ行フ可キテアル。(相澤抄)

肋膜炎石灰沈着

G. Apitz und G. Frischbier: Pleuraverkalkungen.

既往ニ罹患セル肋膜炎後長期間ノ 後肋膜炎ニ 石灰沈着ヲ來シ且ソレヲ 證明シ得タ 3 患者ニ就テ報告ス。

此ノ石灰化ノ原因ニハ 後肋膜炎性變性ト 組織學的變化及ビ血清中ニ、「カルシウム」含有量ガ 體質的ニ高マル事カ必要ナル。(相澤抄)

肝油給與ニ際スル胃液分泌ニ就テ

Herbert Kansch: Über die Magensaftabsonderung bei Lebertranverabreichung. (Experimentell-physiologischer Beitrag zum Studium der Magenfunktion)

(I)

1) 胃ノ中ヘ消息子ニ依ツテ溶液ヲ注入シテ直接ノ刺戟トシテ 粘膜炎ニ作用セシムル時胃液分泌ノ影響ハソレニヨツテ果サレナイ。

2) 純粹ノ肝油竝ビニ健胃性草本類ノ「エキス」ヲ含ム様ナモノヲ嚥下ニ際シテハ 殆ンド一致シテ比較的ノ酸度ノ輕キ上昇ヲ來タス。

3) 少量ナル試験量ノ 検査ニ依ツテ胃液ノ酸度ノ測定ハ分泌能力ニツイテノ 判定ヲ可能ナラシムルワケニハイカス。

4) 全分泌液ノ測定ト 調整投與ノ前後ニ於ケルソノ 都度ノ分泌量ノ比較ニ依リ初メテ 液形成及酸トノ關係ニ就テ説明ヲ與ヘ得。

(II)

1) 胃液形成ハ純粹ノ肝油ノ投與ニ依ツテ少シク上昇スルコトガ經驗サレタ (55—122%) Kräuterlebertran ハ實際高度ニ 液分泌ヲ 促スコトガ出來ル (170—226%)

2) Kräutertran ヲ與ヘタ後ノ 液分泌ノ 增量ハ絕對的酸度ニ相當セル上昇ヲ示ス。

3) 肝油ノ味ハ肝油ニ口内藥ヲ添加スルコトニ依ツテ 其クナル 又食欲モ高マリ 尙胃液形成ノ 促進ニ依ツテ 消化ヲ其クスル。(相澤抄)

S-H-G-Diät ニ依ル結核治療ニ際スル血液検査

Marta Stamm: Blutuntersuchungen bei der Behandlung Tuberkulöser mit der Sauerbruch-Herrmannsdorfer-Gerson-Diät.

53 名ノ結核患者ニ就キ 規則的ニ食餌療法ヲ施シ其ノ経過中ニ於ケル Besredka ニ依ル血液ノ 補體轉向反應ヲ検査シ 15 例ノ 最初陰性反應者ガ該療法中陽性轉化セルモノト次ニ示ス 諸例トノ結果ヲ得タリ。而シテ補體轉向反應ノ 陽性ナリシモノハ 臨牀的ニ充分恢復セシムル場合ニテモ決シテ再ビ 陰性ニナラザリシコトヲ示セリ。即チ全例中 32 例ハ陽性ノモノナリ、其ノ他ノ内、臨牀的ニハ 其方ニ向キタルニ拘ラズ 尙陰性ナリシモノ 2 例。陽性ヲ示セル肺結核患者ニシテ進行性空洞性ニシテ臨牀的ニ増悪セシニ 陰性トナレルモノ 2 例。進行性空洞性ニシテ 遂ニ陰性ニ留マリシモノ 1 例ニシテ 尙骨結核ヲ伴ヘル 1 例ハ 陰性ニシテ 死亡セリ。殘餘ノ 15 例ハ即チ 最初ハ 陰性ナリシモ S-H-G-Diät ニ依ル治療中陽性ナレリ。

此ノ觀察ノ結果結核ノ増悪スルモノヤ最初カラ非常ニ病狀ノ惡イモノハ陰性ヲ示ス事實ヲ認メタリ。

Ferner ハ月經中ノモノ及ビ外科ノ大手術後ニハ一過性ニ陰性トナルト云ヘリ。

尙別ニ8例ノ狼瘡患者ニ Besredka-Probe ヲ行ヘルニ快方ニ向ヘルモノ或ハ全ク治癒セルモノニテモ陰性ニ終始シ唯二三ノモノガ極輕度ノ陽性ヲ示セルノミナリ。即チ、皮膚結核ニ於テカ、ル相違セル反應ノ生ズルハ恐ク結核毒素ガ皮膚ノ中ニ拘束セラレルタメニ血液中ニ影響ヲ及ボサヌノデアラウ。即チ之レハ Jesionek ノ説ト一致セルモノニシテ皮膚ハ結核菌ヤソノ毒素ニ對シテ防禦ノ作用ヲスルモノデアル様ニ見ヘル。(相澤抄)

大伯林ニ於ケル結核症例ノ統計法ヲ統一スル草案

Otto Glogauer : Entwurf einer einheitlichen Bestandsstatistik der Tuberkulosefälle in Groß-Berlin.

現在迄ノ結核例ノ統計ハ唯死亡率其ノ他ニ依リ唯單ニ數字的ニノミ行ハレタルモ實際ノ價値少キ嫌アリ即チ全材料ヲ臨牀的及ビ社會衛生學的領域ニ於テ、各個々ニ互リテノ觀察ヲ以テ處理ス可キモノナリトナセリ。而シテ之レガタメ1930年ヨリ各委員ヲ擧ゲテ種々調査協議シタル結果次ノ成案ヲ得タリ即チ、

A) Fürsorgefälle.

B) Überwachungsfälle.

C) Beobachtungsfälle.

ノ部ニ分チテ觀察ヲ行ヒ統計ヲ取ル可キトシ尙各部ニ互リ諸種ノ項目ニ細別セル表ヲ示セリ。(相澤抄)

會報並雜報

○一月中入會者

西川 義英 北海道帝國大學病院第一外科内
木田 篤敬 神戸市林田區東尻池町一ノ一五
兵庫病院内
本間 正純 愛知縣豐橋市石塚
張 效宗 中華上海真如、東南醫學院内
松枝 勝夫 金澤市小立野金澤醫科大學附屬
醫院谷野内科内
柿下 正道 金澤市高岡町三三
大西 惠敏 鹿兒島市外鴨池日本赤十字社海
濱院内

馬久地 松都 宮城縣柴田郡大河原町尾形丁
永井 一夫 札幌市帝國大學醫學部小兒科内
風間 恒弘 京都帝國大學醫學部眞下内科
副手
渡部 秋雄 茨城縣廳衛生課茨城縣結核診療
所内
石光 薰 Monsieur le Dr. K. Ishimitsu
Legation du Japon Téhéran
Perse